

# あなたのためです 応急手当を!!

平成4年度、都留市内の救急出勤件数は792件で平均1日に2.17件でした。

これら急病や交通事故を始めとする各種の救急事故が発生した場合、救急隊が現場に到着する以前にそこに居合わせた人たちの適切な応急手当てが速やかに実施されることによって傷病者の救命率が格段に向上することは医学的見地からも明らかです。

市内の各所に救急車が到着するまで平均して5分、最大15分かかります。この時を空白時間にしてはなりません。唯一その時間を埋めることが出来るのは、その場に居合わせた人たちだけなのです。

傷病の発生時に家族、通行人、その他の人が現場に居合わせながら「動かさない方が良い」「どうして良いかわからぬ」などの理由から傷病者に対し応急手当がされずに放置さ

れ救急車が到着までの貴重な時間を浪費したことから失われていった尊い命、また、予後を悪く後遺症の残る事例は少なくないのが現実です。救急隊が到着する前に現場に居合わせた「あなた」の応急手当が適切に実施されれば救命率の向上に大きな効果があります。

本年度、消防本部では、応急手当の普及啓発を重点目標にかけ市民一人ひとりが応急手当の方法を身につけていただきたいと思います。

各自主防災会、事業所、学校等で積極的な勉強会が開かれるようお願いします。

なお、『広報つる』で「あなたのためです応急手当」を連載します。

問合先 消防本部広報担当または警防班 ☎(43)2341

## 倒れている人の容体の見方

① 意識があるかないか?



耳もとで落ちていた声で名前を呼んだり、両肩をやさしくたたくか、ゆすってみる。大声でゆり動かしたりすると症状を悪化させることもある。反応がないときは、呼吸ができなくなることがあるので、すぐに気道の開放（気道確保）をする。③参照

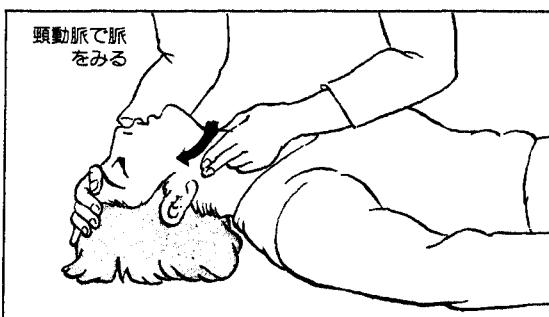
② 呼吸があるかないか?



呼吸のチェックは、自分のほおを倒れている人の口に近づけて口や鼻の空気の吐き出しを調べる。それと同時に目でも胸の上下の動きを確かめる。

呼吸がなかったり不規則ならば、ただちに気道を開放し口対口の人工呼吸を!。④参照

③ 脈があるかないか?



意識を失っている人の脈停止（心停止）を確認するのは手首ではむづかしいこともあります。この場合、おとなは頸動脈か大腿動脈で、1歳ぐらいまでの乳児の場合には上腕動脈か大腿動脈に軽く人さし指と中指をあて、5~10秒間かけて脈を調べる。⑤参照

④ 大出血があるかどうか?



動脈からの出血は鮮紅色の血液がピュッ、ピュッと吹き出ます。静脈からは暗赤色の血液が、じわじわと流れ出てきます。毛細血管からの血液は、にじみ出る感じです。⑥参照

冷静に行動を!

よく症状を確認し、大声で協力者を集め、119番で救急車を手配。来るまで応急処置をとる。

